

# 九会の息吹を創る会便り

## 九会地区ふるさと創造会議

創刊第一号 平成二六年九月一日

九会に新しい息吹を起こし、明るく楽しく元気のある地域創りを目指す「九会地区ふるさと創造会議」について、新聞として初めて地域の皆様に紹介します。

### 社会の動向

日本の少子高齢化は今後ますます進行し、地域においては、活動力の低下、担い手不足による農業の崩壊、伝承していくべき神社・仏閣の祭りごとの衰退、空き家や独居老人の増加、生活環境における維持管理の困難性など多くの課題が押し迫っています。

また、日本創世会議・人口減少問題検討分科会は、平成五十年には加西市をはじめ県内五十市区町の約三分の一の自治体で、子供を産み育てる若年女性（二十歳から三十九歳）の数が半減し、自治体の運営が厳しくなり将来消滅する可能性があります。すると、地域崩壊の危険性を指摘しています。

片や政府は五十年後に人口一億人を維持すると言っていますが、今後、少子化、高齢化に具体的にどう対応していけばよいのか、地域力を維持するために何をしていけばよいのか、国・自治体と共に地域自身が今から考えていく必要があります。

### 九会地区では

九会地区には十五の町があり二千三百九十九世帯、六千五百九十九人が住んでいます。加西市では五万人都市再生を掲げ、各種施策が展開されていますが、日本全体の将来人口推計と同様、九会地区の各町も人口減少の道をたどることが予測されています。人口減は、晩婚化と生涯出生率の低下が大きく影響しています。こうしたことへの対応は子育て支援等、国を挙げて施策が講じられていますが非常に難しい問題で、その成果は出ていません。

地域の活性化に向けて、九会地区の各町がそれぞれ単独で実施することは困難なことでも、地区全体で取り組めば可能なことや、全体で取り組むべきことが色々と考えられるのではないのでしょうか。そうすることでより地域に活力が生まれ、明るい魅力のある地域になり、多少でも人口減に歯止めをかけることができると思います。自助、共助、公助の時代です。まずは自分の手で出来ることは自分で、それでも出来ないことは地域の皆で助け合って、更に助けを必要とする時には公の力を借りる事が求められているのではないのでしょうか。

### ふるさと創造会議構想

地域のさまざまな環境要因による問題や課題はますます大きくなっていき、個々の町の方だけでは到底対応出来ないことが増えてくると思われます。それらの問題に対処し、各々の町の実情や特性を踏まえた魅力ある地域をつくるためにはどうすればいいのでしょうか。それには住民自身が自らの思いを持ち、主体的に町創りに参画し、地域全体の協働による地域づくりが必要です。

そのため、小学校校区内の各町が連携し、課題解決に向けた取り組みをすすめる「ふるさと創造会議」が、加西市十一小学校校区毎に平成二十五年度より随時創設され、活動を始めています。

### 九会地区ふるさと創造会議準備会設立



九会地区は前網引町区長の板井正和氏を代表として、平成二十五年十二月から区長会を中心とする「ふるさと創造会議」を発足させる準備をすすめてきました。

最初の取り組みとして、二月に九会十五町の区長、農会長、老人会長など役員の皆様並びに民生委員、社会教育推進員、小中学校役員など各種委員の方々に『アンケート』を行い、各町の現状と課題、アピールすべきことや観光資源、友愛活動などの状況、今後の取り組みなどについて意見を求め、九会の抱えている課題や魅力を再確認し、今後の地域作りの方向性を検討する資料としました。

回収率はとても高く、本当に身近な問題点の気づきや今後の活動提言などが多く寄せられ、皆様の地域を思う気持ちが強く伝わってくる内容でした。ご協力頂いた方々に感謝申し上げます。その後、三月十七日に各町の区長様から推薦頂いた皆様に、理事として活動していただくことを了承頂き、ふるさと創造会議立ち上げミーティングを行い、九会地区の現状確認、創造会議活動の基本姿勢について話し合い、「九会地区ふるさと創造会議」を発足させることになりました。

役員は十二名の方々と、九会を愛しより良い地域にしたいと考える熱い気持ちを持たれた方ばかりです。今後、さらに幅広く各町・各世代の方々

にご協力頂き、より充実した会にしていきたくと考えています。

役職・担当	名前	備考
代表	板井 正和	前網引町区長
副代表	吉田 廣	市老連副会長
副代表(理事会運営担当)	筧 一義	九会区長会副代表区長
事務局長(広報担当)	深田 照明	下宮木村町社会教育推進員
会計	原田 久夫	九会区長会幹事
理事(自然環境保護担当)	山下 公明	南網引町区長
理事(高齢者の元気作り担当)	尾花 幸雄	鶉野中町花家族の会代表
理事(農地農業活性化担当)	石井 和博	(農)あびき 理事
理事(スポーツ・イベント担当)	河合 新一	スポーツクラブ 21 九会代表
理事(学校・PTA 担当)	岸本 祐三	九会小学校校長
監事	黒田 義昭	九会区長会代表区長
監事	松本 肇	九会地区老人クラブ会長

立ち上げ会議ではお互いに忌憚のない意見を出し合い、九会をもっと活性化していくために、少しずつでもやれることからすすんでいこうと決意しました。

そして当面は正式な「ふるさと創造会議」としての発足ではなく、総会など形式にとらわれず、有機的に活動ができる「九会地区ふるさと創造会議準備会」という形ですすめていくことになり、四月一日に発足しました。



加西市 地域担当職員

九会校区に住まいする職員で理事会に参加、助言を得ています。	
生活環境部長	井上 利八
総務部次長	森川 尚登
健康福祉部次長	深田 秀一
農業委員会事務局長	亀田 哲馬
教育委員会文化スポーツ課長	深江 克尚

九会地区 15 町の町別人口 (H26. 3. 31 現在)

町 名	人口(人)	高齢化率(%) 65歳以上人口
中野町	867	30.6
田原町	1,053	31.8
網引町	661	32.2
南網引町	121	40.3
栄町	199	31.2
桑原田町	344	28.2
繁陽町	211	30.8
繁昌町	808	27.6
繁昌団地自治会	447	11.0
上宮木町	232	25.4
下宮木村町	115	25.2
下宮木町	254	26.0
鶉野上町	456	24.3
鶉野南町	439	25.1
鶉野中町	392	29.3
合計 (平均)	6,599	27.9
加西市全体	46,141	28.5



九会小学校校舎

## 円卓会議開催

続いて、準備会の企画第一弾として、五月十九日に農村環境改善センターで各町の活動をささえておられる役員の皆様など六十名以上に集まって頂いて、円卓会議として二月のアンケートで問題や課題についての意見が多かった①自然・環境保護 ②高齢者の元気作り ③農地農業の活性化 ④スポーツ・イベントの活性化 ⑤神社仏閣行事の盛り上げの五つのテーマに分かれて真剣に意見交換をして頂きました。

いずれも各町の現状は問題点も多く課題が山積していますが、それらに対処して地域をより活性化するために色々な提言を頂きました。



①自然・環境保護  
・環境をテーマにしたイベントで、PRと環境保護の自覚を促す  
・里山整備で自然植生の繁茂を促す

②高齢者の元気づくり  
・サロン活動など先進的に実施

③農地農業の活性化  
・担い手の確保  
・農作業負担の軽減  
・六次産業化を図る  
・ITの活用

④スポーツ・イベントの活性化

・地区全体の運動会やマラソン大会の実施  
・イベントを合わせた

グラウンドゴルフの更なる展開、参加者増加

⑤神社・仏閣行事の復興  
・九会地区のマップ作りで皆に知ってもらう。  
・女性の参加を増やせば子供の参加も増える。

その提言には具体的なものもありますが、実現には時間をかけて一歩ずつすすめていくものが多



く、簡単に課題が解決するものではないというのがまよめ意見でした。その解決の一助として、ふるさと創造会議の存在意義があります。

## 九会地区ふるさと創造会議の意義と活動

ひとつの町では解決できない問題も、九会地区十五町を横断的につなぎ、みんなで協力することで九会地区を元気にし、地区を愛する一人ひとりがもつと元気になることができると思います。

それを目指して頑張っていきたいと理事一同考えています。しかし、いきなり目に見える結果は出せないのが実情です。そこでやれるところから一歩一歩前進する、元気のある町の活動を他の町にも浸透させていく、そのためにも地域のみんなが知恵を出し合い、力を合わせ取り組んでいきたいと思えます。

その活動には加西市地域担当職員の皆様も全面的に協力して頂いています。

## あびき湿原観察会開催

そこでまず九会の自然環境の素晴らしさを地域の方々に知ってもらうためにあびき湿原観察会を七月二十六日にふるさと創造会議主催で開催し、三十名以上の参加者の皆様に九会の自然の奥深さを味わって頂きました。

あびき湿原は南網引町の山裾にあり、兵庫県下でも最大規模の湿原で、絶滅危惧種の体長ニセンチほどのハッチョウトンボ、ヒメタイコウチなどを始め希少動植物の宝庫です。

その保全には山下区長さんをはじめ、あびき湿原保存会の皆様がボランティア活動で積極的に取り組んでおられます。

当会議でも湿原観察会の企画、保全活動支援、整備協力で素晴らしい九会の自然環境保護に努めていきます。次回観察会は九月二十七日(土)を予定しています。

なお平成二十六年六月一日、あびき湿原付近一帯を、加西市条例で「野生生物保護地区」として指定されました。



## 今後の活動予定

今後、円卓会議の五つのテーマを中心に、九会地区活性化に向けて具体的な活動をどう進め、どのような施策を展開していけばいいのか、議論を重ねていきます。

その計画として、九月のあびき湿原観察会、地区全体の神社・仏閣など観光マップ作り、播磨中央自転車道開通に關係したイベント企画、高齢者や地域を元気にする企画などをすすめていく予定です。

それらの企画に対しても九会地区の多くの方の声が反映され、自分たちの地域は自分たちで守り、より明るく元気な九会地区にしていけるようにと考えています。皆様の声は上部組織である九会区長会の各区長様にご連絡頂くか、当会議のホームページでもご意見をどしどし受け付けています。皆様のご意見をお待ちしています。

## 九会地区ふるさと創造会議 『九会の息吹を創る会』のホームページへようこそ

当会議の活動報告をするホームページを作っています。検索サイトで「九会地区ふるさと創造会議」と入力して下さい。当会議の別名は、今までと一味違った、新しい風を起こす『さわやかな息吹を創りたい』という板井代表の思いから名付けられた、『九会の息吹を創る会』です。

そのホームページに

は、当会議の設立意義と活動理念、今までの活動報告、これからの予定、そして地区十五町の良いところ、行事予定など盛りだくさんの内容が詰まっています。トップページに、『九会地区全員の皆様が元気になる情報をお届けします。今までは町内だけで



しか考えられなかった活動を、隣の町も、そしてその隣も協働して動いていけば、何か今以上のもつと大きなことが出来るのではないかと。新しい可能性が生まれるのではないかと。

それが「力」になってもつと大きなものを動かしていくために、「こんな事をすれば良いのでは」とか、「ここにこんなに素晴らしい人が居るよ」等の地区内のいろんな情報を九会地区ふるさと創造会議までお寄せ頂ければ、その夢に一歩一歩近づくとおもいます」と記載されています。お気軽にアクセスして見てください。

## 皆様へのお願い

九会地区は加西市でも相当の面積と多くの人口があります。また豊かな大地では米、麦、特産の大根、ぶどう、もも、トマト、夏野菜など豊富な実りがあります。人々も気さくで思いやりのある方々ばかりです。そんな素晴らしい九会地区を守るために、区長会、農会長会、老人会、民生委員、PTA、消防団など多くの皆様が日々活動されていることに敬意を表します。当会議はこれらの団体の皆様をはじめ、地区全員の皆様と深く連携しながら活動を行っていきますので、改めてご協力ご理解を宜しくお願い申し上げます。

また当会議では実務的にイラスト作成や新聞編集、ホームページ作成に力を貸して下さる学生さんをお募りしています。HPのお問い合わせに、ぜひとも若い力で活動を助けてやろうという意気込みを見せて下さい。もちろん年代は限定ではありません。どなたでもご協力願える方を募集していますので宜しくお願い申し上げます。

## 九会地区ふるさと創造会議連絡先

ご連絡やお問い合わせはホームページ並びに南部公民館(農村環境改善センター)または板井代表までお願い致します。

九会地区ふるさと創造会議事務局  
南部公民館内 電話・FAX 0790-49-0041  
板井正和代表  
〒675-2113 加西市網引町 545-1  
携帯電話 090-5670-3490  
Mail info@kue-furusato.org  
ホームページ http://kue-furusato.org/

発行責任者  
代表 板井正和  
編集担当  
事務局長 深田照明